

柳田雑記

No1~27 (2016年~2018年)



2019年

「さらば積年の同志諸君。…」

(最後のメールより 2018年10月23日)

追悼！柳田健（野崎進）

WEBリベラシオン社

柳田雑記 (1)

★東京地裁「城崎判決」を糾弾する！

本年11月24日、東京地裁(辻川靖夫裁判長)は、城崎勉君(東京拘置所に未決勾留中)に対して懲役12年(求刑懲役15年、未決算入450日)の判決を下した。

1986年5月にインドネシアのジャカルタで起きた日本大使館への手製金属弾発射事件(近くのホテルからロケット砲で砲撃したというもの)で、殺人未遂の罪である。城崎君と弁護団は東京高裁へ即日控訴した。

これは全くの不当な判決である。

城崎君は「インドネシアには行ったことがない」と言っている。1986年当時、彼はレバノンのベカン高原でパレスチナ人の砲兵部隊におりイスラエル軍と対峙していた。このことは当時レバノンに居た足立正生氏をはじめ何人かの人が証言している。

これは全くの冤罪事件である。

東京地裁の辻川裁判長は公判の途中で、城崎君に対して、現金はいくら持っているか、どこに住むつもりかと聞いている。いちおう聞いてみただけという事だったのか？ 辻川裁判長の心象はおそらく無罪だったのではないだろうか。

しかし城崎君が(同時に起こされたアメリカ大使館砲撃の罪により)アメリカで18年間服役した事を考えて、それを覆す判決をだすことは出来なかった。15年を求刑している検察の存在もある。司法官僚である辻川裁判長は保身にまわったのだろう。

公判を傍聴した浅野健一氏によれば、判決を述べる辻川裁判長の声はぼそぼそと小さく、判決を下すと逃げるように法廷を去ったとのことだ。

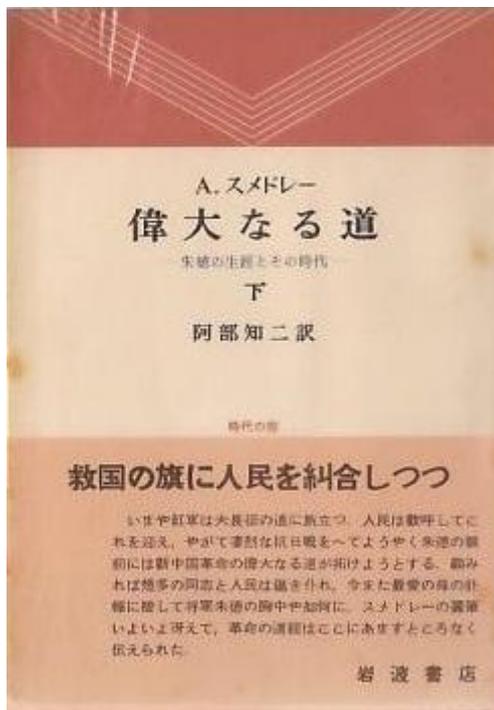
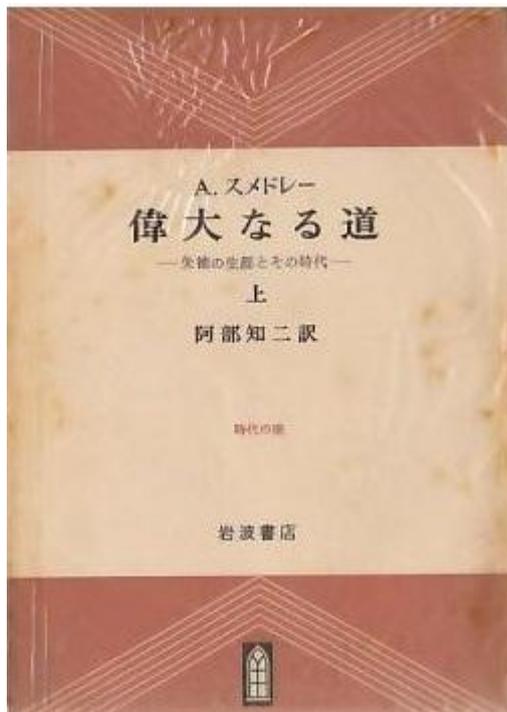
城崎君はすでに18年間アメリカで服役している。同時に起こされた日本大使館とアメリカ大使館への砲撃事件をそれぞれの国で一つ一つ裁くというのは「一事不再理」の原則から言っても不当であり、ましてや城崎君は罪を否認している。決定的な証拠も証言もなく、「推認できる」という程度の判断で、これから先、更に12年の監獄生活を強いるというのはあまりではないか。「過激派」とレッテルをはられた人物には人権はないのか？

公平な裁判が行われるよう皆様のご支援をお願いします。

2016年12月10日 城崎勉さんを救援する会 柳田 健

柳田雑記 (2)

～アグネス・スメドレーの「偉大なる道」～



「偉大なる道」は私の青春時代に最も影響を与えた書のひとつである。

私はこの書で紅軍が朱毛軍と呼ばれていたことを知った。そして紅軍の形成には毛沢東より朱徳の役割の方が大きかったかを知った。しかし朱徳は毛沢東に出会ってからは、この人こそ中国革命を指導する人だと思い毛沢東の陰に隠れた。それは毛沢東がいらいらするほどであったという。

アグネス・スメドレーは長征中の紅軍によりそって延安にいった。「偉大なる道」はマッカシーセン風の吹き荒れる中で書き続けられたものである。同時にこの時アグネスは英国から独立を果たしたインドのネルー首相から政治顧問としてインドへ来てほしいという招聘を受けていた。それをも断って、この中国の社会主義を目指す政権の成立過程、その運動を描いたのである。それは朱徳の伝記という形をとった中国の社会主義を目指す革命運動の壮大な歴史の記録であった。

アメリカにおれなくなったスメドレーはロンドンに亡命し、1950年、そこで客死する。「偉大なる道」は遺稿となった。

アグネス・スドレー(Agnes Smedley) 1882年2月23日—1950年5月6日

『女一人大地を行く』(角川書店 1962)

『中国紅軍は前進する』(東邦出版社 1965)

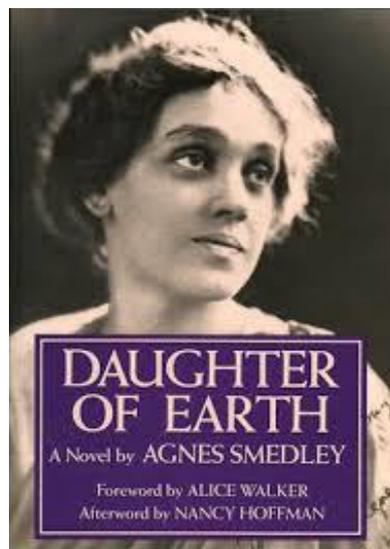
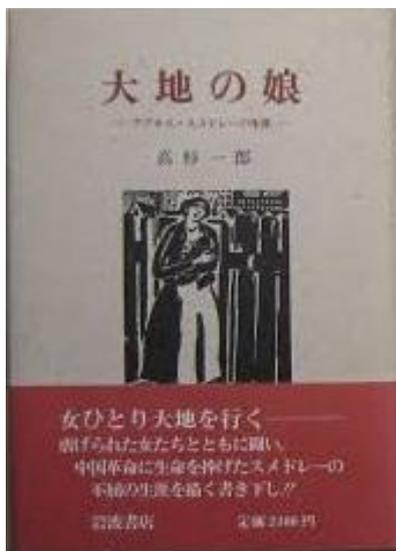
『偉大なる道 朱徳の生涯とその時代』(岩波書店 1966)

『中国の夜明け前』(東邦出版社 1966)

2016.12.20 柳田 健

柳田雑記 (3)

～中国紅軍に寄り添う朱徳將軍の伝記～



中国紅軍に寄り添い朱徳將軍の伝記「偉大なる道」を書いたアグネス・スメドレー。

マッカーシーせん風でアメリカを追われ、ロンドンで客死した。長らくアメリカで暮らした石垣綾子はスメドレーと懇意だった。1930年代、アメリカニューヨークには彼等が集う左翼社会があった。中国の赤い星をかいたエドガー・スノウ等石垣綾子のエッセーではスメドレーが入院するとき最後の言葉を書きのこしている。

「わたしはただ一つの信念、ただ一つの忠節に生きてきた。そしてそれは貧しく、虐げられた者の解放であった。その骨組みのし一つとして、中国の革命が成功したのだった。と書いてある。また自分の骨は中国に埋めてほしいとかいている。

スドレーの遺言どおり、スドレーの墓は、北京郊外にあるという。

ヒトラーのドイツになってから、彼女は「マンチェスターガーデアン」誌の特派員になったが、彼女の活動地帯は、いつも前線で、中国の解放軍と共に、奥地を何千里と歩き、革命の苦しい過程の中を中国人と同じ食べ物を食べ、行軍し、かたい床に眠り、彼らの怒りと、苦しみと、よろこびをともにしてきた、

そうした中で知った朱徳の生涯をスドレーは、ヤド(アメリカニューヨーク郊外の芸術村のコロニー)で書いたのだった。



このような時期に石垣綾子は、スドレーと親しく往来するようになり、朱徳伝の感想を言ったりしていたが、1949年の夏、インド政府の高官から、インド政府の顧問として、スドレーを迎えたいという手紙がきた。しかしこれは本人の意思と、ヤドに居た作家たちの意見で行かないとになった。

1947年頃から、アメリカの対中国政策は、大転換し始めた。新しい中国への同情は、次第にうすくなり、目にみえぬ圧迫の影が、反蒋介石の立場をとる中国専門家の上に忍び寄ってきた。スドレーの新聞、雑誌への寄稿や、講演は少なくなりはじめた。彼女のいたヤドには、FBIのスパイが潜り込んできた。スドレーはそこをおわれるように立ち去って友人の家に身を寄せるようになった。

ところが1949年の2月、突然に、彼女の名は「ソ連のスパイ」という汚名きせられ、センセーショナルなヘッドラインに現れた。彼女はゾルゲ事件のスパイ団の一人というのである。彼女はこの挑戦に対して、勇敢に戦った。彼女をスパイと叫びだした陸軍当局は、取り消し文を公表し、スパイ呼ばわりを引っ込めた。だが、その取り消し文は、新聞の隅の方に小さく掲載されただけで、一度ひろがったスパイの名は消えさらなかった。

アメリカのアジア政策の変更と共にマッカーシズムの気狂いじみた「赤狩り」が始まっていた。

国賓として招待されたネール首相の身边に覆面の男が付きまとった。

電話の会話の控えを撮り、訪問客の名前を撮り、手紙を闇にほうむった。

ネール首相の出発の日が明後日に迫っていたけれども、無理な時間を割いてスドレーから、中国の内情を聞きたいというのだった。

その年の秋、彼女は未完成の「偉大なる道」をかかえて、イギリスに渡った。

この本が完成され次第彼女は中国にいくつもりだったのだ。

スドレーは1950年、5月6日、胃潰瘍の手術の経過が思わしくなく、この世を去った。

2017-2-7 柳田 健

柳田雑記 (4)

～中国紅軍に寄り添う朱徳將軍の伝記 (2)～



中国紅軍に寄り添い朱徳將軍の伝記「偉大なる道」を書いたアグネス・スドレー。

マッカーシーせん風でアメリカを追われ、ロンドンで客死した。長らくアメリカで暮らした石垣綾子はスドレーと懇意だった。1930年代、アメリカニューヨークには彼等が集う左翼社会があった。中国の赤い星をかいたエドガー・スノウ等

石垣綾子のエッセーではスドレーが入院するとき最後の言葉を書きのこしている。

「わたしはただ一つの信念、ただ一つの忠節に生きてきた。そしてそれは貧しく、虐げられた者の解放であった。その骨組みのし一つとして、中国の革命が成功したのだった。」と書いてある。また自分の骨は中国に埋めてほしいとかいている。

スドレーの遺言どおり、スドレーの墓は、北京郊外にあるという。

ヒットラーのドイツになってから、彼女は「マンチェスターガーデアン」誌の特派員になったが、彼女の活動地帯は、いつも前線で、中国の解放軍と共に、奥地を何千里と歩き、革命の苦しい過程の中を中国人と同じ食べ物を食べ、行軍し、かたい床に眠り、彼らの怒りと、苦しみと、よろこびをともにしてきた、

そうした中で知った朱徳の生涯をスドレーは、ヤド(アメリカニューヨーク郊外の芸術村のコロニー)で書いたのだった。

このような時期に石垣綾子は、スドレーと親しく往来するよーになり、朱徳伝の感想を言ったりしていたが、1949年の夏、インド政府の高官から、インド政府の顧問として、スドレーを迎えたいという手紙がきた。しかしこれは本人の意思と、ヤドに居た作家たちの意見で行かないとなった。

1947年頃から、アメリカの対中国政策は、大転換し始めた。新しい中国への同情は、次第にうすくなり、目にみえぬ圧迫の影が、反蒋介石の立場をとる中国専門家の上に忍び寄ってきた。スドレーの新聞、雑誌への寄稿や、講演は少なくなりはじめた。彼女のいたヤドには、FBIのスパイが潜り込んできた。スドレーはそこをおわれるように立ち去って友人の家に身を寄せるようになった。

ところが1949年の2月、突然に、彼女の名は「ソ連のスパイ」という汚名きせられ、センセーショナルなヘッドラインに現れた。彼女はゾルゲ事件のスパイ団の一人というのである。彼女はこ

の挑戦に対して、勇敢に戦った。彼女をスパイといいだした陸軍当局は、取り消し文を公表し、スパイ呼ばわりを引っ込めた。だが、その取り消し文は、新聞の隅の方に小さく掲載されただけで、一度ひろがったスパイの名は消えさらなかった。

アメリカのアジア政策の変更と共にマッカーシズムの気狂いじみた「赤狩り」が始まっていた。

国賓として招待されたネール首相の身边に覆面の男が付きまとった。

電話の会話の控えを撮り、訪問客の名前を撮り、手紙を闇にほうむった。

ネール首相の出発の日が明後日に迫っていたけれども、無理な時間を割いてメドレーから、中国の内情を聞きたいというのだった。

その年の秋、彼女は未完成の「偉大なる道」をかかえて、イギリスに渡った。

この本が完成され次第彼女は中国にいくつもりだったのだ。

スメドレーは1950年、5月6日、胃潰瘍の手術の経過が思わしくなく、この世を去った。

私は若い頃、岩波から出版されたスメドレーの「偉大なる道」を読み、中国革命に敬意をいただいた。

紅軍の事実上の創設者である朱徳が毛沢東と出会うと彼の後ろに一步身をひき、それは時に毛沢東をいらだたせた。中国革命の過程をこれほど見事に描いたものは他にない。ロシア革命のように、第1次大戦の混乱のなかで一気加勢に成立した革命と異なり長い年月をかけて、反革命蒋介石軍と戦い、日本帝国主義を追い出して成就した中国革命は朱徳をはじめ、周恩来、劉少奇、鄧小平ら多くの優れた人材をようし、簡単には崩壊しなかった。毛沢東の文化大革命で多少の揺らぎはあったが中華人民共和国は崩壊しなかった。ソ連が崩壊した今、社会主義を目指す国は、中国、ベトナム、キューバである。

ベトナムはホーチミン、ポーゲンザップ等、キューバにはカストロ、ゲバラ、ラウル・カストロ等グラマ号の82人がいる。

柳田雑記 (5)

映画『慕情』を観た。

2017年2月22日



DVDで映画「慕情」を観た。1949年香港が舞台だ。医師ハンスウーイン(ジェニファー・ジョウンズ)と新聞記者マーク(ウィリアム・ホールデン)の甘い恋もの物語だ。

今から60年ぐらい前に観た。

Love is a many splendored thing の名曲が全編に流れる。

Loves' a many splendored thing
then your fingers touch
may silent heart.

香港の小高い丘が2人の逢引きの舞台だ
今回、これを見て中国革命と大陸の内戦の様子がよくわかる。

彼女の重慶の実家はまだ中共軍に占領されていない。彼女の実家は重慶にある。共産主義の嫌いな大ブルジョアジー。だが逃げようとはしない。やがて重慶も落とされるが。家族がどうなったかは描かれてない。

朝鮮戦争が始まり、マークは前線に派遣される。マークは爆撃に会い死亡、する。

マークがああ丘に現れる事は無い。

この時代、中国が解放され、アメリカが支援した蒋介石は台湾に逃げた。

米第7艦隊が中台海峡に展開し共産軍の台湾進攻を阻んだ。朝鮮北部も中共軍に援護された朝鮮共産軍が米軍と李承晩反共軍を38度線に押しもどした。米国内はマッカーシー扇風が吹き荒れた。

こんな時代につくられた、ヘンリーキング監督の作品だが反共映画ではない。

柳田雑記 (6)

石垣綾子は「石垣綾子日記」に書いている。



日本の無条件降伏。8月15日は、真夏だというのに、ニューヨークは肌寒い曇り日だった。

私達は、どんなにこの日を待ち焦がれたことだろう。悪夢の日々はおわったのだ。敵国人として、アメリカに暮らす私達が、懐かしい祖国の傷つけられて姿を遠くから見ていることが、どんなにつらかったか。

ついにその時が来たのだ。私は両手を高くかざして、ありったけの声で叫びたかった。家の中などに、じっとしてはいられない。私は栄太郎を促して、街へとびだした。私たちは帰って行こう、廃虚の中から生まれ変わる日本へ、再建の苦しみと喜びを、ともに分かち合える祖国の人々の中へ、抑圧されてきた人たちが穴倉から這い出て、新しい世界を創造していくその日本へ、遠い別世界だった日本がが、なんと身近に微笑みかけてきたことだろう。

私たちはこれからの日本をかたりあった。「でもね」と、私は小さな声で、栄太郎に言った。「天皇はいったいどんな気持ちで敗戦を迎えたのでしょうかね。人間の心を持っているのなら、責任を負うて、生きるに耐えられず、といった心境になるのが当然だとおもうわ。」

これが私の素朴な正直な疑問だった。

「天皇制維持」は、日本の支配層側の全面降伏の第一条件であった。支配階級は「国体にしがみついていたとしても、死滅の底に追い込まれた国民-は、怒りの行動

に立ち上がることはないのだろうか。

ムツソリーニは、変装して逃げる途中で逮捕され、愛人クララ・ベタッチとともに、イタリア・パルチザンに射殺された。かつてはイタリアのアイドルであったムツソリーニを、イタリア国民は不当な戦争の苦しみを体験して、その戦争責任を追及し、彼等自身の手で裁いたのではないか。

ヒトラーは降伏直前、民衆の憤激に追い詰められ、ベルリンの地下壕で愛人のエヴァ・ブラウンと共に自らの命を絶った。

だがおなじ敗戦国でありながら、日本の国民の反応は平穏で、支配層に寛大、天皇の責任追及の声はなにひとつ聞こえてこなかった。

戦後だいぶたってから、米 국무省が極密外交文書を公表したが、それによれば、マッカーサーは天皇の裁判に反対し、アイゼンハウアーにあてた手紙で次のように書いているという。

- 一、私は、天皇が第 2 次大戦中及びその開戦に導いた政治的諸決定に、直接責任をもっているとは思はない。天皇を裁判にかければ、数世紀に及ぶ報復を受けることになるだろう。何年かに渡って日本に、最低百万人の軍隊を駐留させることになるだろう。
- 一、天皇を戦争犯罪人として起訴することは、日本国民にきわめて大きな動揺を与えることは疑いなく、その反動はいかに過小評価しても、しすぎることはない。天皇は、日本国民全体を結び付けている象徴であり、天皇を破滅させれば、国民はバラバラになってしまうだろう。
- 一、すでに冷戦への第一歩をふみだしていたアメリカの対日政策上からも、天皇制存続は必須のことだったのだろうが、天皇の名によって 3 百万人を超える同胞の命を奪われていた日本国民の中からは責任追及の声が上がらず、天皇の「人間宣言」の欺瞞に、容易に屈服したことは、日本の将来に決定的な禍根となったと、私は考えている。

その責任をいまも忘れることなく追及しているのは、日本の行為によって千五百万人に上の犠牲者をだしたアジアの人々である。

その天皇は、アメリカでは記者団から戦争責任にかんして質問され、そのような文学方面の綾については……と、答弁をかわしたことを私はわすれない。あの戦争の責任は、単なる、「文学方面の、言葉の綾」にすぎなかったのだろうか。

戦後 50 年ちかく、たった今も、天皇の「責任」を追及し得なかった「責任」を、日本の国民は世界からも歴史からも問われている、とはいえないだろうか。

私は石垣綾子に全く賛成である。

もう少し具体てきにいえば 1944 年暮れに近衛人麻呂が天皇に会見して、この戦争はもうだめだから、降伏するようにすすめた。しかし天皇はもう一撃加えてその上で降

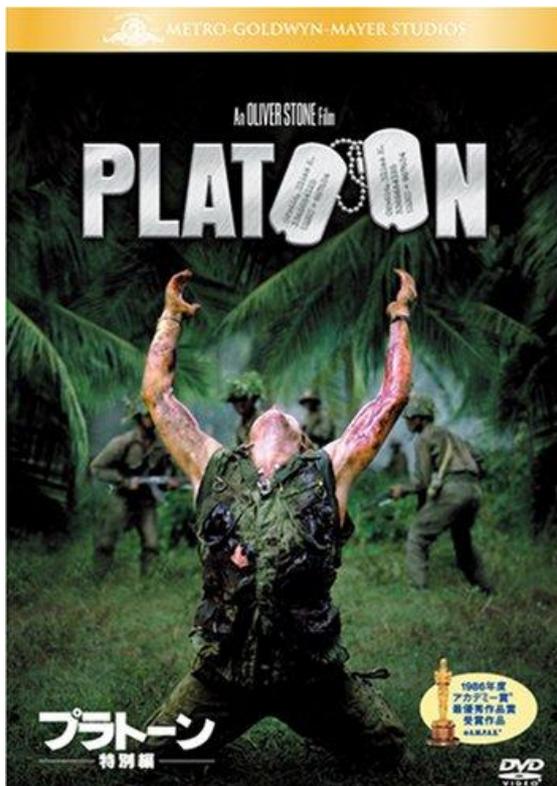
伏しようとな衛の進言を退けた。そして降伏までの8か月のあいだに2つの原爆をふくむ莫大な犠牲が発生した。昭和天皇の責任は重い。

2017.2.22 柳田 健。

柳田雑記(7)

2017年3月4日

DVD「プラトーン」



DVDで「プラトーン」を観た。ベトナム戦争時、米軍と南ベトナム解放戦線との死闘を描いたアカデミー賞をとった名作だ。もちろん米軍の側から描かれている。敵とは解放戦線のことだ。「ベトナムで戦死した兵士にささげる」とラストに出る。しかし反戦映画だ。世界でアメリカと戦って勝利した国はベトナムしかない。天皇がベトナムを訪問した。ベトナム人民の偉大な戦いに対する一遍の賛辞もなく、よくシャーシャーとアジアの平和も無いもんだ。

柳田雑記(8)

スルタンガリエフをご存知だろうか。

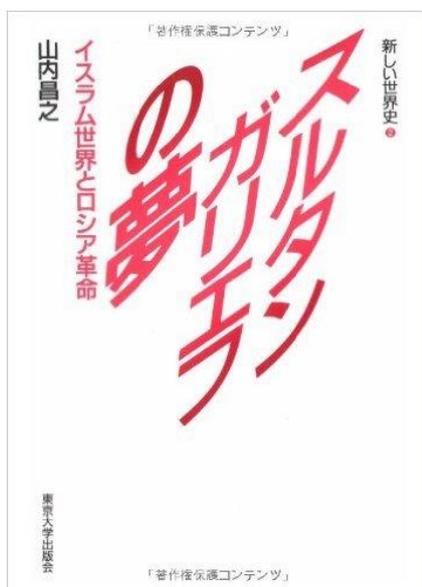
3月5日



彼は、ヴォルガタートル人出身の民族共産主義者として、イスラーム東方世界における社会主義の独特な性格を強調した。

階級闘争とプロレタリア独裁に関する欧米中心の古典理論を修正することによって第3世界の重要性に初めて着目したアジア出身の社会主義者であった。その文明論的な欧米中心主義批判は、徹底したコロンブス嫌いに象徴されている。

『クリストファー・コロンブスこの名はヨーロッパ帝国主義者の心の中で、愛され、いとおしげに語られる。しかし、彼こそまさにヨーロッパの略奪者のために、アメリカへの道筋を「切り開いた」のである。イギリス、フランス、スペイン、イタリア、ドイツなどは「土着」のアメリカの略奪、破壊、荒廃に押しなべて一役買った。「土着」アメリカの犠牲において自分たちの資本主義的な都市とブルジョア帝国主義文化を建設したのである。ティムールやジンギスカンなどのモンゴル諸侯のヨーロッパ侵入も、ヨーロッパ人が「発見」したアメリカでの彼らが蹂躞者としておこなった残虐行為のまえでは色褪せてしまう』(社会革命と東方 1919年)



このアジア社会主義の先駆者は、バンコルトスタンノシバーエバツォ村で、国民学校のロシア語教師を父とし、没落タートル人貴族の娘を母として、生まれた。

カザンのタートル人師範学校では、文学、自然科学、心理学の成績が良く、1911年に首席で卒業した。在学中からロシア革命思想に大きな影響を受けていたがウファやバクーの図書館員や新聞編集委員の仕事を見つけることができた。

1917年の2月革命を機にペテログラードに移ったが間もなく7月にカザン住居を変えた。

そこでムスリム社会主義者委員会やムスリム共産党の組織化にあたる一方、後のソ連共産党の前身、ロシア社会民主主義労働党ボルシェビキに加盟した。

まもなくスターリンに抜擢されて、中央ムスリム軍事参与会議長、民族問題人民委員部参与会員、「民族生活」紙編集長、赤軍政治総本部東方局長、連邦土地委員会議長など、20以上の常勤の役職を務めた。これはムスリム・コムにストとして最高の栄位に上り詰めたことをいみする。

1918年ファティマ・エルジナと結婚している。タートル人豪商の娘ファティマは屈託のない芸術好きの女性だった。彼女は創作を趣味としており、2人は芸術への共通の関心をつうじてむすばれたのだろう。



さてスルタンガリエフは、その主要論文「ムスリムに対する反宗教宣伝の方法について」(1921年)のなかで、イスラームが丸ごと反動的な宗教だという偏見を退けて、個人と集団を進歩的な社会派原理にも基づいて統合する規範として、イスラームを積極てきに評価した。かれはイスラム法(シャリーフ)の本質には十分にポジティブなものが性格」の。がたくさん含まれている。また、ここ1世紀あまりイスラーム世界の全域が西欧帝国種具によって搾取されて来たので、「宗教イスラームは抑圧され防御にまわった宗教としての資格をもっていたし、いまでももっている」という。イスラームはそれ自体で反帝国主義の宗教なのだと言いたげである。

さらに抑圧されたプロレタリアートのアナロジーで、抑圧された民族を「プロレタリア民族」と考える独自の視点も打ち出した。これは暗にロシア人を「ブルジョア民族」と批判することにつながる。

ドイツとロシアの活動を基本軸とする、コミンテルンによせる眼差しも厳しかった。スルタンガリエフは、コミンテルンがヨーロッパ中心主義に偏向していると批判して、アジア、アフリカの抑圧された民族からなる「植民地インターナショナル」の結成を呼び掛けたのである。



これでは共産党の教義に疑いをさしはさむことになってしまう。スターリンの党運営の手法を批判して、トロツキーに接近したのは決定的であった。スルタンガリエフは、1923年5月に逮捕されて、間もなく除名されてしまう。

この経緯でスターリンが仕掛けた罠と陰謀のあざとさは見事なくらいであり、後年すべての古参ボルシエビキが肅清されていく原型がすでに表れていた。28年12月には第2回目の逮捕が彼を襲い。31年1月から34年3月まで北海のソロフキ島で服役したらしい。34年に釈放されたが37年には第3回目となる逮捕の悲劇にみまわれる。40年1月にモスクワのルビヤンカ監獄の「ザステーノク」で処刑された。ザステーノクとは拷問所の謂に他ならない。

それから半世、がたってペレストロイカの下で90年6月ようやく名誉が回復された。かれが花々しく活躍したカザン市にはスルタンガリエフ広場がつくられて、そのタートルスタン共和国の市民が散策しながら、その往時を偲んでいる。

スターリンはトロッキーを始め、17年の革命をともに行った同志達を粛清した。スルタンガリエフもまたその1人である。彼の場合コミンテルンのヨーロッパ中心主義に反対であり、優れた独創性の持ち主であったから、中央アジアに独自の社会主義革命を成立させたことだろう。

それは中国、共産党の革命と結びつき多様性を認める社会主義を実現したことだろう。それは人民に支持されてソ連の崩壊はなかつただろう。

スターリンは共産主義運動にとってまことに罪深い存在だ。

柳田雑記 (9)

共謀罪について



優しい「父べえ」は大学を出たドイツ文学者。戦時体制下で治安維持法に背き「思想犯」として逮捕され、長く勾留される。家族との連絡は検閲された手紙だけ。妻子は困窮する。

2008年の映画「母べえ」である。治安維持法は1925(大正14)年4月にでき

た。

当初は共産主義を抑え込むための法律だったが、取り締まりの対象は言論人や芸術運動にまで広がった。法律制定にあたり、ときの内相若礼次郎は「抽象的の文字を使わず具体の文字を用い、決してあいまいな解釈を許さぬ」と答弁した。「司法相」の小川平吉は「無辜の民にまで及ぼすというごときことのないように十分研究考慮を致しました」と説明した。

90年以上たった今、国会で似た答弁を聞く。犯罪を計画段階で罰する「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ法改正案に対する安倍首相の説明だ。「解釈を恣意的にするより、しっかり明文的に法制度を確立する。」「一般の方々がその対象になることはありえないことがより明確になるよう検討していると」その法案がきのう閣議決定された。3度も廃案となった法案である。時代や状況が違っても、政府とは何かと人々を見張る装置を増やそうとするものなのか。政治権力の本能を見た思ういがする。「母べえ」が描くのは、捜査機関の横暴だけではない。法と権力を恐れ、ふつうの人たちが監視する側に回る、秩序や安全を守るという政府の声が高らかに響き、社会はじわじわと息苦しさを増していく。

「朝日新聞 2017.3.22 天声人語」から

柳田雑記 (10)

後漢時代について



後漢時代、清廉潔白で知られた楊震という官僚に、男が金子を渡そうとした。「どうぞお納めください」丁寧に断る楊震に男は言う「ここにいるのは私とあなただけ。

誰も知りません。」すると楊震は「天は知る。地は知る。私とあなたも知る。」隠し事はばれるという有名な中国故事「四知」である。「わたし」か「あなた」、どちらかがウソをついている。

はっきりしたのはこのことである。きのう「森友学園の籠池泰典氏画国会の証人喚問で「首相夫人から 100 万円の寄付をうけた。」と述べた。夫人は否定している、

夫人「安倍晋三からです。どうぞ」。籠池氏「いいんでしょうか」。明かされた園長室でのやり取りは具体的で、ほんとうにあったことのように聞こえる。

(「神戸新聞」3月24日正平調)

柳田雑記（11） - 番外編

ミールサイト・スルタンガリエフ(Mir Seyyit Sultan Galiyev, 1882年7月13日 - 1940年1月28日)は、ロシア革命期のタタール人民族主義者、革命運動家。

現在のバシコルトスタン共和国のウファ県ステルリタマク郡にて生まれた。1907年、カザン師範学校(露: К а з а н с к и й у ч и т е л ь с к и й и н с т и т у т 、英: Kazan Teachers Institute、現 en:Tatar State University of Humanities and Education) カザンのタタール人師範学校(英: Tatar Teachers College)を卒業後、ウファ市立図書館で勤務する。新聞社での記者活動を経て、1917年にロシア共産党に入党。入党後は、カフカース派で共感を覚えていたヨシフ・スターリンに大抜擢され、中央ムスリム人民委員部委員、ムスリム軍事参与会議長、民族問題人民委員部(露: Н а р к о м н а ц 、英: Narkomnats)の機関紙『民族生活』(露: Ж и з н ь Н а ц и о н а л ь н о с т е й 、英: The Life of nationalities)の編集長を務め、ムスリム出身の党員では党内の最高位まで登りつめた。

スルタンガリエフは、ソ連のタタール人社会を、資本主義の前段階にあるものとして位置づけ、すでに資本主義化したロシア人社会とは異なるアプローチで社会主義システムを建設する必要があると主張した。また、西洋の帝国主義から植民地を解放する上で、民族主義や宗教の役割を高く評価した。

スルタンガリエフは、著作『ムスリムに対する反宗教宣伝の方法』において、党内で一般的であったイスラームを反動的宗教とする考えを否定し、人間と社会の間のバランスを取る存在としてイスラームを評価している。また、帝国主義諸国に植民地化されたイスラーム世界において、イスラームは反帝国主義の思想になり得ると主張した。

こうした思想を背景として、スルタンガリエフは、ソ連領内のテュルク系諸民族による統一した自治政府の必要性を主張し、ヴォルガ川中流域の「タタール共和国」・「バシキール共和国」、トルキスタンの「トルキスタン共和国」の設立活動を行った。エンヴェル・パシャの裏切り(バスマチ蜂起)によって汎テュルク主義が奨励されなくなり、その同年 1923年に反ソ運動を行ったということで逮捕され失脚。1940年に処刑された。

ペレストロイカ期の歴史の見直しの過程で、1990年にソ連邦最高裁の決定により名誉回復がなされた。

スルタンガリエフ・中央アジアへの鎮魂歌 山内昌之

1986年、ソ連のカザフスタンではブレジネフ体制の象徴とも目されたクナーエフ政治局員の解任を機に、カザフ人の間に大きな反発が生じたのである。これは民族明代のマグマの噴出として、その後のソ連における民族問題関係の複雑さを見事に浮き彫りにした。

ソ連が解体したには、1991年12月のことである。中央アジアの国々はせいかいでも珍しいことだが、自ら積極的に望んだわけでもない独立をはからずも手にいれたのである。他の大きな共和国に続いて、中央アジアの一角にあるタートルスタンもロシア連邦から独立せんばかりの勢いであった。タートルstanは、中央アジアとロシア連邦を結びつける地理的な位置を占めていたからだった。またタートル人は歴史的にも、商業や信仰や学術の面でも中央アジアの人々の動きや思潮をリードしてきた。

しかしアメリカのメディアはタートルスタンがロシア連邦の解体を内部からうながす要因ではではないかと注目したのであろう。旧ソ連の下では一共和国にすぎなかったタートルが何故にスルタンガリエフの生誕百年祭を開くことになったのか。旧ソ連や中央アジアでも目立った存在でなかったスルタンガリエフが日本で歴史の暗がりから復元された直後にペレストロイカの行方を暗くする要因として民族問題が深刻になった。すると日本でもスルタンガリエフの遺産について、論じられるようになったのは皮肉なことである。

足跡に派手さがまるでないこの人物は、タートル人出身のムスリム民族共産主義者でありイスラム東方世界における社会主義の独特な性格を強調した。「社会主義」といえばいまでは落ちた偶像でしかないが中央アジアでもおおきなインパクトをもった時期もあった。しかしそれは最初から積極的な影響だけでなく、否定的な意味合いでも現れている。

1917年の革命の成功をおさめたボルシャヴィキことロシア共産党は、中央アジアに対する領土経営をロシア帝国と同じくらい熱心に進めた。そのようなやり方は、共産主義というというイデオロギー、赤軍や秘密警察という武力や暴力、欺瞞と空手形にあふれたユートピア、党による水も漏らさぬ監視と圧力などを複雑にかみ合わされた。ロシア帝国の征服はスターリン政治体制の野蛮な肅清によって完成したかのようであった。農業集団化がひきおこした遊牧民の強制定住、家畜の絶滅、人為的な欺瞞と共に中央アジアの人びとが数百万とう単位で死に追い込まれた。

ボルシェイヴィキは、ロシア帝国が中央アジアを植民地として利用したと批判したが、自らの工業化のためにそれをソヴィエト内部の「中央に対する周縁」または「社会主義植民地を放置したままだったことには口をつぐんだ。しかもソビエト工業のために綿花や天然資源を搾り取っただけでなく自然環境や衛星の破壊、核実験や核実験や人体実験、など人道的に到底許されない行為があきずすすめられてきた。化学肥料

や成長促進剤のゆきすぎた使用によって、幼児死亡率が跳ね上がり、母親達は彼女達自身の母乳が汚染されているという理由から赤ん坊に授乳しないように警告された。平均寿命の短縮は現在の中央アジアの一番の苦悩である。ソヴィエト時代で起きた「犯罪」としか言いようのない醜聞をいくつかヒイテミミル。スルタンガリエフが活躍したボルガ中流域では、1987年には魚の三分の一が農薬中毒で死んだ。中央アジアでは飲料水の中に農薬が検出されるのも珍しくない。一万ヘクタール以上の土地が衛生基準値を上回るDDT濃度を含んでいる。土地によっては、基準値の2倍から8倍にもおよぶという。旧ソ連の中央アジアでは、綿花や野菜の収穫に生徒を動員することも珍しくなかったが、ある日、玉ねぎに触っただけで生徒達が中毒にかかってしまった。その農場では基準値の130倍もの農薬が含まれていることが発覚した。

1990年のウズベキスタンでは、毒性のキノコを食べた43人が入院したが、うち2人の子供が死亡している。このキノコは食用種であったが、有毒化学物質や農薬公害などで汚染されていた、また、アラル海の醜聞についてはもはや指摘するまでもないだろう。乾燥した湖から吹き上げられた塩が、640キロメートルも東のチムケントのように、遠く離れた土地の植物まで破壊してしまった。チムケントが「緑の町」の意味だというのも皮肉なことである。

もっと悲惨なのは、1953年の大気圏内の核実験に際して、カザフスタンノセミバラチンスク州のある村の住民が事実上の「人間モルモット」として用いられたケースである。40人の人間モルモットは、他の村人たちが実験の前に避難させられた後にも土地に残されたという。40人全員がガンにおかされ、1990年には34人がすでに死んでいた。

実験停止後もカザフスタンの人々は忌まわしい記憶と影響から免れなかった。カザフスタン住民700万が今でもなんらかのガン症状を呈している。

こうした象徴的な事例を見ているだけで、中央アジアは旧ソ連内部の第3世界だったことがわかるだろう。この地域は本国＝中心(メトロポール)の繁栄を支えるための犠牲を偲ぶべき衛星＝周縁(サテライト)にすぎなかったのである。これが社会主義ユートピアの陰に隠れた人間＝民族抑圧の闇の部分であった。こうした悲惨な現状を予見するかのように、欧米中心のマルクス主義古典理論を修正することによって、「第3世界」の重要性に初めて着目したアジア出身の社会主義者こそ、スルタンガイエフだったのである。

「かりにイギリスで革命が勝利してとしても、この国のプロレタリアートは現在のブルジョア政府の政策を追求し、植民地を抑圧し続けるであろう。なぜなら、イギリスのプロレタリアートは植民地の収奪に利害関係を持っているからだ。東方の労働者に対する抑圧を避けるために、われわれは地元の自立的な共産主義運動のもとでムスリム民衆を団結させねばならない。」

スルタンガリエフのこの言は、1918年つまり革命成が成就した翌年のことである。かれはイギリスの例をロシア共産党ことボルシェヴィキのイデオロギーや活動にたいする真意をオブラートに包む素材として用いている。その意図を理解するには、「イギリス」という語句を「ロシア」に置き換えればよい。結局、かれは他の中央アジア人はもとより、ウクライナ人やグルジア人といった非ロシア人、もいち早く察知したように、ボルシャヴィキ体制が往々にしてロシア人中心主義の支配に終わることさえ感じていた。

スルタンガリエフの欧米中心主義批判は、現在であればエドワード・サイードの「オリエンタリズム」を彷彿させる文明論を伴っている。「社会革命と東方」という記念碑的な論文は、「東方を搾取してやまないヨーロッパとアメリカのけばけばしいブルジョア文化文明と文明の建設力」に「間接的な寄与」を強いられるのが東方だと断定している。

「白人」の物心両面にわたる富の不当は分け前はすべて東方でかすめとられ、多彩な皮膚をもつ数億の「土着」人種の勤労大衆による血と汗とをぎせいにしてちくせきされた」しかし、徹底した欧米世界批判とコロンブスなどの白人嫌い、それと対になるアジア・イスラム世界中心主義を打ち出しながら、社会主義にたいする異形の眼差しも謙虚に持ち合わせている。スルタンガリエフの姿勢は、アメリカの論壇やアカデミイで言論の自由を享受しながらリベラルな民主主義を冷笑的に懐疑する世紀末のアラブ系比較文学者サイードの屈折したコンプレックスよりもはるかにすがすがしい。スルタンガリエフの率直なコロンブス館などは、いまのネイティブアメリカンやアフリカ系アメリカ人がよんでも批判に耐えるはずだ

クリストファー・コロンブス！この名はヨーロッパ帝国主義者の心の中で愛され、いとをしげに語られる。しかし、まさに彼こそヨーロッパの略奪者のためにアメリカへの道筋を「切り開いた」のである。イギリス、フランス、スペイン、イタリア、ドイツなどは、「土着」のアメリカの略奪、破壊、荒廃におしなべて一役買った。「土着」アメリカの犠牲において自分たちの資本主義的な都市とブルジョア帝国主義文化を建設啞したのである。

ティムールやジンギ・スハーンなどのモンゴル諸侯のヨーロッパ侵も、ヨーロッパ人が「発見した」アメリカかれらが蹂躪して行った残虐行為のまえではすべて色あせてしまう。(社会革命と東方 1919)

この前後で展開される容赦のないアメリカ文化批判も妥協がないだけに、その素朴な迫りに驚かされる。「アメリカ」を「ロシア」に、さしあたり「インカ」や「アメリカ・インディアン」を「イスラーム」「中央アジア」などにおきかえてみると、スルタンガリエフの告発の意図がおぼろげながら浮かび上がってくる。

「平和をあいする」現在のアメリカ人と「進歩と技術」に富んだその「コスモポリタン」な文化を作るため荷は、数千万ものアメリカ原住民とブラック・アフリカ人を滅亡、させ、

すぐれた「インカ」文化を地上から根絶やしにする必要が会った。シカゴ、ニューヨークそしてヨーロッパ化された他のアメリカ諸都市の摩天楼の雄姿は、非人間的なプランターが責め殺した「アメリカ・インディアン」と黒人の死骸の上に、そして破壊されつきし煙がくすぶる「インカ」都市の廃虚のうえにうちたてられたのだ」

こうしてみると、スルタンガリエフはアジア社会主義の先駆者というよりも、ナショナリズムと社会主義を折衷しようとしたムスリムだったといえるだろう、私がかれの思想を「ムスリム民族共産主義、」と呼んだ理由もお分かりいただけるだろう。

「ムスリム諸国の人民は、プロレタリアート民族の性格をもっている。経済事情からみると、イギリスやフランスのプロレタリアートと、モロッコやアフガニスタンのプロレタリアートには大きなへだたりがある。ムスリム諸国の民族運動が社会主義革命の性格を帯びている点こそ強調されねばならない。これと同様の傾向はロシアムスリムの民族的な願望のなかにも現れている」

この文章からも想像されるように、ドイツとロシアの活動を基本軸とするコミンテルンに寄せる眼差しも厳しかった。スルタンガリエフは国際革命の司令塔たるコミンテルンがヨーロッパ中心主義に傾向していると批判して、アジア・アフリカの抑圧された民族ロシア革命の影響を受けたタタール人など中央アジアのムスリムだったことはいうまでもない。

たしかに、欧米のケースをみれば分かるように、社会主義はそれだけでは植民地主義の解毒剤にはならない。ルノーやクルップの労働者たちは資本家から利潤の「おこぼれ」をもらって、豊かな生活を営むことができた。それも結局は植民地を市場や原材料供給地としてもっているからである。

こうして、スルタンガリエフは植民地世界の民族による欧米に対する逆ヘゲモニーの行使を不可欠と考えた。かれは「人類の発展的な変容がかかっている物理的な諸要因は、工業中心地に対する植民地。半植民地の独裁樹立に酔って初めて獲得できると」として、周縁による中心へのヘゲモニーを強調していた。ロシアも工業中心地の一角にあるのでこのヘゲモニーを受けなくてはならない。こう考えたスルタンガリエフの構想が植民地インターナショナルなのであった。

「この壮大な構想を実現するためには、植民地地域を単一の第3インターナショナルからは自立する。第3インターナショナルは、以前のインターナショナルと同様自分自身とも対立し、工業社会の代表たちが支配したからだ。この植民地インターナショナルは、抑圧された全人民をつつみこむであろう」

スルタンガリエフに言わせるとロシア人ボルシェヴィキが優位に立つソヴィエトロシアが、植民地インターナショナルに加入資格をもたないのは理の当然である。20年代になされたと思われる説明は断定的ですらある。

「共産主義的ではあるが工業列国でもあるソ連は、植民地インターナショナルから排除されねばならない。ただしロシアのムスリムはそれに加入するものとする」

ロシア人ムスリムとの力関係を逆転させてムスリムの逆へゲモニーを夢見ることは、共産党の根本教義に疑いをさしはさむ作業に繋がってしまう。しかいこれだけでは党の万能の指導者スターリンの感情を異様に昂らせることにはならない。決定的なのは、書記長の党運営の手法をひはんして、トロッキーに接近したことはなかったろうか。スルタンガリエフエフは40年1月にモスクワのルビヤンカ監獄で処刑されたこのが分かっている。

それから半世紀たって、この人物はペレストロイカたけなわの90年6月ようやく名誉が回復された。かれが華々しく活躍したカザン市の公民館前にはスルタンガリエフ広場がつくられて、タタールスタン共和国の市民が散策しながらその往時を偲ぶようになった。その平和な光景を私が見たのは名誉回復の直後90年7月の下旬であった。人々の明るい様子を見るにつけても、ようやく中央アジア新しい自由の時代が来たのだと私も実感したことだけは昨日のように懐かしく思い出すのである。

柳田雑記 (12)

「北朝鮮」について



今日 2017 年 5. 月 13 日. アジア新時代研究会主催の佐々木道博さんの朝鮮最新情勢講演会があった。

た。北朝鮮のミサイルがいかに優れているかの話であった。北朝鮮礼賛の話で聴衆もまたまた同じだった。

私は北朝鮮がミサイルを打ち上げるのをあたかも犯罪のように騒ぎ立てる政府与党やマスコミには全くナンセンスだとおもっている。アメリカをはじめ日本やその他の先進国はしょっちゅうミサイルを打ち上げている。ミサイルを打ち上げるのはその国の権利である。北朝鮮のミサイルが優れているのは結構なことだ。

しかし金正恩体制はおかしい。金正男氏暗殺を佐々木氏はCIAの仕業だという。マレーシア政府が実行犯をとらえ彼等をうごかした北朝鮮大使館の数人を国外追放している。マレーシはどことも利害関係はない。自国内で発生した殺人事件を調べているだけだ。これをCIAの手口だと言うのは強弁だ。

質問もした。金正恩が登場すると必ずそばに胸にいっぱいのお勲章をつけた將軍たちがいならぶ。異常な光景だ。

それにマルクスもレーニンも社会主義の定義として位階制の廃止を述べている、おそらく初期の赤軍は指揮官も兵士も赤い星一つの帽子を被っていたはずだ。この一つの事実からも北朝鮮は社会主義ではない。

それに歴代書記長はすべて金一家である。金王朝いったほうがふさわしい。こんなことはあのスターリンでさえやらなかった。毛沢東のむすこは朝鮮戦争で戦死した。カストロも。

ホーチミンも息子に書記長を継がせていない。

拉致問題にしてもまったくもってナンセンスだ。百害あって一利なしだ。何の意味もないのにあんなことをやっている。安倍をはじめ日本の支配層を喜ばせるだけだ。

2017.5.14 柳田 健

柳田雑記 (13)

大坂正明氏の逮捕について



革共同中核派の大坂正明氏が逮捕された、まことに残念なことだ。

46年前の渋谷暴動で、警察官を殺害した殺人容疑である。

46年も前のことは時効である。

権力は殺人罪についてはちやつちやつと時効をはずしている。

世界のどこに48年も前の事件をとりだして逮捕する国があるだろうか。

1970年初頭全世界で反戦運動が広がった。イタリーの赤い旅団は時の首相モロを暗殺した。その実行犯を含めてはるか前に釈放され70年代の事件を追跡する国はない。

こんなことを今だにやっているのは日本だけである。

日本は先進国だそうだが、こと権力にたてつく

者に対する弾圧はおよそ先進国の名にあたいしない。

2017/5/23 柳田 健



◆1971年「11-14」沖縄返還協定批准阻止闘争——機動隊に撲殺された永田典子さん

またまた話が逸れる。先に1971年の沖縄返還協定批准阻止の闘いで「機動隊員殺害」の容疑で逮捕されたO氏(まだ容疑とされている事件の真偽が確定していないので、あえてO氏とする)に因んで、ここでも機動隊に撲殺された若い女性教師・永田典子さんのことを思い出した。私は中核派でもなんでもないが、立場は違え当時沖縄闘争に必死で闘っていた者として一言記しておきたい。当時の政府の判断の誤りが、今の沖縄の現状に繋がっていることで、立場は違え当時必死に闘っていたことは間違いではなかったと今でも思っている。

肉体死しても 闘魂死せず

人民の怒りが さんにつぎ一人目であった。

最高潮に達した 永田典子さんの遺体は東京板橋 十一月沖繩返還 区戸田火葬場で茶鬼(だび)に付 協定批准阻止闘 争で一人の反戦 派労働者が権力 の手によって虐 殺された。

全国反戦、革 共同が記者会見

十一月二十九日夜、全国反戦(今 野世話人)、革共同の主催で行な われた記者会見では、事実経過の 報告のあと、以下の四点にわたり

永田さん虐殺に 怒りをこめて

永田典子氏の略歴

一九四四年十月二十六日、高知県 に生まれた。二七歳。高知女子大 学文学部英文学科を卒業。大阪府 吹田市立青山台中学校教諭。

就職直後から組合活動に熱心に 参加。六九年十一月闘争で逮捕さ れた反戦派労働者に対する救援活 動を通じて反戦派労働者の活動に 参加した。

途中、池袋駅で機動隊の過剰警 備による襲撃をうけ、蹴落とされた 火炎レソが爆発し、顔面、手足な ど35箇所におよぶ大やけどを負って 入院。病院での不眠不休の手厚い 看護が続けられ、やけどは快方に むかっていたが、火炎を吸い込んで いたため、二七日午前二時頃、 急に容態が悪化し、急性肺炎、心 不全を併発して同日二時三十分な くなった。

六〇年安保闘争以来、機動隊の 強手に襲れたはじめての反戦労働 者であり、女性としては櫻美智子

ばれている。

④六〇年安保闘争以来、反戦派労働者としては最初の犠牲者である。④この事態に対し、14、19でこたえたが、これで足りるとは思われない。君の遺志をうけつぎ、その怒りをさらに燃え立たせ、権力との闘いに勝利しぬいていくことのできるであらう。

七〇年四月六月闘争以来各闘争に積極的に参加し、特に今年九月三里塚闘争に深い感銘を受け、佐藤政府への激しい怒りとともに労働者として闘う覚悟、決意を練めた。

職場でも、真面目で熱心な教育者で、生徒からも慕われていた。十月末には友人から故櫻美智子さんの「人知れず微笑まん」を借りて読んでいた。十一月十四日の闘争に参加。池袋で機動隊に襲撃され重傷のやけどを負い、病院での懸命の手当てにもかかわらず十一月二七日午前二時三十分、つかえらぬ人となった。

△六〇年以來権力の手で虐殺された人々▽

- × 櫻美智子、和井田史郎、山崎博昭、滝沢紀昭、津本忠雄、糟谷孝幸、中村喜巳、柴野春彦
- ×
- ×

柳田雑記 (14)

加藤登紀子～今日は帰れない



You Tube—今日は帰れない

 <https://www.youtube.com/watch?v=AuuxZmifzfc>

作詞 Stanislaw Magierski/訳詞:加藤登紀子

作曲 Stanislaw Magierski

唄 加藤登紀子

 <http://www.uta-net.com/movie/157588/>

今日は帰れない

森へ行くんだ窓辺で僕を見送らないで

君のまなざしが闇をおいかけ涙のぬれるのをみたくないから

遠くはなれていてもわすれはしない

いつか君のもとへ戻ってきたら真昼だろうと真夜中のだろうと

熱い口ずけで君を狂わせるよ

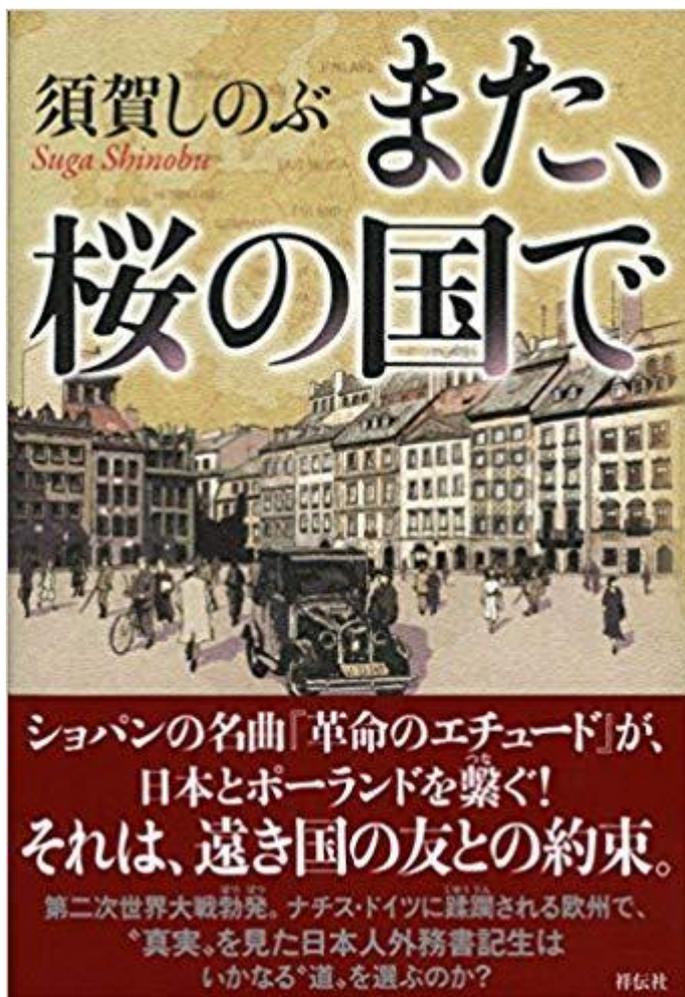
もしも春になっても帰らなければ

麦の穂をまくとき僕の骨だと思っておくれ

麦の穂になって戻った胸に抱きしめておくれ

柳田雑記 (15)

須賀しのぶ「また、桜の国で」祥伝社



一読をすすめます。武田信照君紹介の本
ワルシャワ蜂起の実情はものすごいです。
とても「森へ行くんだ」のようなロマンチック
な側面はありません。それにしても
蜂起をよびかけながら、進撃を留めて壊滅
を待つ「ソ連軍」の姿は知ってはいましたが
あらためて酷いものです、スペイン戦争でも
そうですがスターリンの冷酷はひどいもので
す。ソ連崩壊の遠因はこんなところにあるの
でしょう。

今まで漠然と知っていた「ワルシャワ蜂起」
の内容を生々しく知りました。

「ワルシャワ労働歌」をデモの時に何気なく
歌っていましたが、「インタナショナル」に匹
敵する戦いの背景があることがわかりまし
た。

2017.6.17 柳田

柳田雑記 (16)

レーニン、トロツキーの「赤軍」



帽子の赤い星一つだった。指揮系統である連隊，大隊，中隊，小隊と位階制は結びついていなかった。

2018.9.15 柳田

「トロツキーの赤軍の歌」

Banker and boss hate the way workers stand
shoulder to shoulder in every land,

But from the steppe to the black British Sea,
Trotsky's Red Army brings Victory.

So workers hold your rank, be strong and steady,
In freedom cause your bayonets bright,

Worker's mother land, the Soviet Union
get ready for the last great fight.

(直訳)

銀行家も資本家も、あらゆる国々から労働者が
肩を組み起ち上げる事を嫌悪する

しかし(シベリア)ステップ地帯から北海(バルチック海)まで
トロツキーの赤軍が勝利をもたらす

ゆえに労働者諸君、自らの階級を強固に維持せよ
自由のために君たちの銃口をぴかぴかに磨いておけ

労働者の祖国、ソヴィエト・ユニオンは
最後の偉大なる戦いの準備を整えている

柳田雑記 (17)

よど号ハイジャックは 1970 年 3 月

2018年1月28日 柳田



もう 50 年近く昔の事件である。これはもう時効である。略取した飛行機は返却している。窃盗事件である。

50 年も前の窃盗事件の犯人をいまだに追いかけている国が世界のどこにあるだろうか。

1970 年代は世界で色々な事件

があった。イタリーの赤い旅団は時のモロ首相を暗殺した。

しかし、其の実行犯を含めて、いま獄中にいるも者はいない。西ドイツのバーダー・マインホフもしかりである。ゲバラに従ったレジス・ドブレはフランス、ミッテラン政権の閣僚でなった。

海外逃亡の罪には時効がない。これはおかしいことである。というよりはこれは欠陥法律である。この法律に25年程度の時効をつけて国会で通し、今、平壤新留、小西君ら4人の無罪帰国を認めるべきである。

この法案の国会上程に協力をお願いしたい。

柳田雑記 (18) 「塩見孝也とその時代」(京都大学)

柳田 健 (56年大阪市大入学、元共産同) ・ ・ 2018年3月17日

献杯の辞 塩見孝也君について



塩見孝也君は、「過渡期世界論」をひっさげて一世を風靡した革命家です。

7・6で、東京を追われた田宮高麿が大阪に来てわたしのもとにやってきた。

自分をブントにオルグしたのは柳田さんだからその責任をとって赤軍派に来てくださいと言った。

その田宮が心酔したのが塩見でした。大阪戦旗社で新開がどうなんだと聞くと、「僕は塩見についていく」ときっぱりといいきりました。

獄中 18 年の後、朝鮮を訪れた塩見と田宮はしっかりと抱きあいました。

赤軍派が結成されたが。しかし赤軍派は「大菩薩峠」で権力に敗北し、彼自身は獄中 18 年を余儀なくされます。

これは日本の革命史上、「3.15 事件」を書いて権力に虐殺された小林多喜二、獄中 20 年を強いられた日本共産党の徳田球一、志賀義雄に次ぐものです。

私は彼の理論に必ずしも同調するものではありませんが、彼の革命のために戦う姿勢、それを知るが故に権力に弾圧された彼の姿勢に敬意を表するものであります。

彼の眠りの安らかならんことを祈ります。

柳田雑記 (19) 花園君へ

貴君の意見に賛成です。私は社会主義革命にこだわるべきでないと思います。社会主義革命は、何故か内ゲバがおこなわれます。ブント、中核派、青解派の内ゲバが内包されています。関西の中核派はブントに接近して合流しそうですが、清水丈夫の中核派はそうはいかないでしょう。その点は悪名高いベルンシュタインの改良主義でもいいと思います。レーニンは激しく非難していますが、第一次世界大戦にさいして

図書新聞
33460号
2018
4/7

寄稿 旧著紹介

▼アレクサンドル・ヤコブレフ著、井上幸義訳『マルクス主義の崩壊』1994年2月刊、四六判、三四頁・サイマル出版会

ヤコブレフはゴルバチョフ前・直後の段落と合わせて引

エヴィキが、資本主義の発展の中で新たに生じた現象にと

譯である。「その結果（ロシア革命70年の）歴史の自然な

「最初の二撃の後では後戻りはきかない。ホリシエヴィキは、トロツキーの後について、永久革命の可能性と必要

の学説の明らかな諸矛盾と、革命の勃発の前提と条件に

計画経済は、例えば、園アラシ1つの生産と分配を考

社会主義は空想である

資本主義の基盤で、未知の歴史への前進を図るべき

花園紀男



いったい、どこに問題があったのか。(1)マルクス主義の誤謬 1 真理の独裁(ゴチックは引用者)

マルクス主義の基盤で、未知の歴史への前進を図るべきである。

自国政府の参戦に賛成したからです。自国政府の敗北は貫くべきです。要は改良のなかみです。プロレタリアートの生活向上が勝ちとればいいのです。それと戦争反対です。第2次大戦以降、帝国主義戦争はおこなわれていません。今後もないでしょう。アメリカは今も中東で戦争していますが、その大義はアメリカ国内で多数派とは言えません。

2018年4月26日 柳田 健

柳田雑記 (20) 私の戦いの歴史

2018年5月21日 柳田 健



1960年の第1次安保闘争。この6.15で樺美智子さんが全学連の国会デモで南通用門前で第4機動隊員に殺された。

翌日の大阪市大の1000人のデモの後方に日の丸の旗が翻っていた。恐らく体育会のグループが参加していたのだろう。反安保の声がいかにか多くの学生に支持されていたかがわかる。

60年から66年、警職法反対闘争。大阪府庁に押し掛けたデモは府庁入口の溝に押されて散らかった。

た。片桐さんも落ちて負傷した。



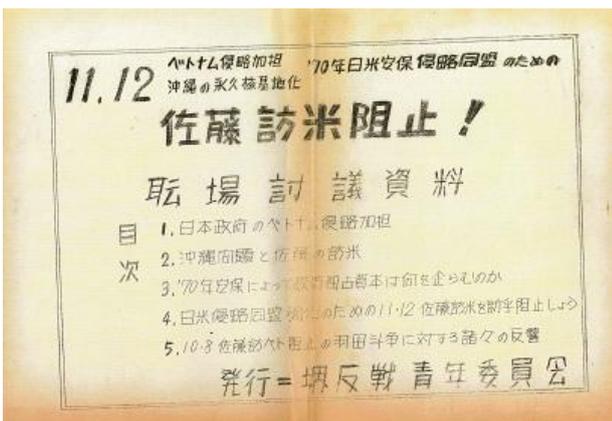
佐世保米空母エンタープライズが寄港するのを反対する闘争。連日九州大学から出撃する全学連のデモに民衆の支持が集まり、戦いの場である佐世保は民衆で埋まった。そしてカンパが100万円集まった。ブント系は鳥栖でゲバ棒とドッキングして武装した。



68年アスパックに反対して京大、同志社大ら京都勢は大阪市大杉本校舎に終結した。総指揮は同志社の望月上史、大阪は西浦隆男。関西地区反戦も参加した。大阪市大を出たデモ隊は地下鉄を乗っ取り、本町で御堂筋に躍り出た。ゲバ棒を槍倉のように横一列に構えて機動隊を蹴散らした。

私は高幣真公と堺地区反戦を組織した。全通堺、国労鳳をまきこんだ堺反戦は全電通を軸とする北大阪反戦と共に大きな地区反戦だった。吉田金(吉田金太郎)ちゃんもメンバーだったし、森岡君が長だった。吉田金ちゃんはその後よど号ハイジャックに加わって、北朝鮮で病死した。

この飛行機をベトナムにとばすな。戸村委員長を



いただく反対同盟に連帯して三里塚闘争が68年3月10日、31日に戦われた。

関西地区反戦から参加した片桐さんは機動隊の警棒でヘルメットをたたかれ、それを防ごうとしてヘルメットに手を当てたところを警棒で殴られ指を骨折した。



70年代京大の坂井與直(高見沢洋一)が私の家におとずれた。私はわずかばかりの金をカンパした。その前後彼は京都を訪れて、森本忠紀君らにカンパしてもらっていたのだろう。私は次の戦いの波がおとずれることを、彼のためにも望んだ。しかし彼は癌におかされ。北海道の母の元に倒れこんで死んだ。惜しい男を亡くした。原発反対の運動がおこった。この運動に参加しながら彼がいないことを寂しくおもう。

柳田雑記 (21)

DVDで「哀愁」を観た

2018.5.27 柳田 健



ビビアンリーがなぜかくも重用されるのかわかる気がした。

彼女の顔の表情は抜群だ。

第一次世界大戦下のロンドンで踊り子のヴィヴィアン・リーと英軍将校のロバートは偶然知りあう。

しかし出世した男の戦死を新聞で知る。絶望した女はついに娼婦に身を落とす。

戦争が終わり、帰還する兵士の中に生きた男と出会う。自分のことを言えないまま、イギリス貴族の男のところを逃げ出しウオーター・ブリッジ上で車に飛び込み自殺をする。

第2次大戦がはじまり、出世する男はウオーター・ブリッジで彼女の悲しい運命を思い出す。

そんな運命に置かれた女の悲しい表情をビビアン・リーは見事に表現している。

柳田雑記 (22)



現在平壤にいる小西、赤木、魚本、安部君らの無罪帰国を実現しよう！

「よど号」ハイジャックは 48 年前の事件である。「よど号」の機体は返却されているから、これは窃盗事件である。48 年前の窃盗事件の犯人を追い回している国が世界のどこにあるだろうか。あたら有能な日本人を海外で朽ち果てる愚を犯してはならない。法的根拠としては刑訴法 255 条を少し改正すればいいのである。この改正を立件民主党に依頼して国会で通してもらいたい。

刑訴法 245 条、255 条を改廃しよう。

アラブ赤軍に対する非道な重刑攻撃をゆるすな。
重信房子は 20 年、和光春夫、西川淳は無期、丸岡修は無期で服役中獄死した。
その対象となっているハーグ事件は 40 年前の事件である。世界のどこに 40 年前の事件で無期懲役を科する国があるだろうか。
70 年闘争は欧米でも激しく戦われた。イタリアの赤い旅団は時の首相モロを暗殺した。この事件の実行犯を含めて、今獄中にあるものは誰もいない。
西ドイツ赤軍も 2008 年に最後の長期勾留者が釈放された。
アメリカでも脱走兵であるジェンキンスさんア(曾我さんの夫)は営倉入り 1 週間で釈放されている。

常識的に考えて、40 年も前の事件はすべて全て時効である。

刑訴法 255 条

犯人が国外にいる場合又は逃げ隠れしているため有効に起訴状の謄本の送達若しくは略式命令の告知が出来なかった場合には、時効は、その国外にいる期間又は逃げ隠れしている期間その進行を停止する、
この法律の問題点は「時効」はその国外にいる期間その進行を停止するとして「停止」の期限を設けていないことである。期限がないために 100 年たっても時効は停止したままとなる。これでは「時効」制度そのものの存在意義が損なわれてしまう。

「時効」制度については現在被害者の立場からその廃止まで議論されるようになってきている。殺人罪などの一定の犯罪について、公訴時効を廃止したり公訴時効期間を延長する法案が国会に提出され、このほど成立した。

しかし「時効」制度はローマ法以来存在する重みのある法律である。それは長い法制史の中で、必要性が認められて存在しているのである。深い議論もなしに軽々にきめるべきではない。

刑訴法 255 条は戦後の 1947 年、旧刑法から新刑法に変わるとき、占領軍の民主化要求に保守的な法制局が旧刑法にあった、時効の中断が廃止されようとして、せめて「停止」をのこしたいとして定めたものである。

255 条 1 項前段の「犯人が国外にいる場合時効が停止する」の所に「停止」の期間が入っていない。

もともと時効の中断が廃止は「中断」の場合は、「中断」すると初めに戻って数えるので「時効」がきかなくなる言うことから廃止されたのである。それが「時効」が長期に続くと立法趣旨と逆のものになる。254 条は一旦起訴されると、その間どんなに時間が経とうと時効は停止する。ここにもまた「停止に期限」が入っていない。これもまた立法趣旨と異なる結果となっている。

「こうして当時の総司令部が深い検討を経る事も無く時効中断制度を捨てて時効停止制度を採用を求めたのは誤りであったと思うし、それを採用した我々にも考えのたりないという点があったと思う。」【研修 No297 横井大三

最高裁・公判部長 73,3 ｝

横井氏は「245 条」、「255 条」制定当時の日本側委員である。制定の当事者がこの法律の欠陥を認め、誤りだといっているのである。

三井誠教授はその著「刑事手続法Ⅱ」で次のように述べているのである。

「現行法では、事件が起訴されればどれだけ審理が長引いても公訴時効が完成しないという点で、被告人にとって、厳しい側面をもつことも留意をようする。

「すでに古くは 1965 年、刑法全面改正の作業の過程で、時効停止に限定を加える必要が指摘され具体的方法として、①時効停止期間に最高限度を設ける、②停止期間の停止制度をもうける③公訴時効についても中断の制度を設ける。いずれの案もなを慎重な検討を要するものの、現時点で改めて、立法の手立てが模索されてもよいと思われる。（120頁）

重信裁判で裁かれている事件は全て 70 年台の事件である。40 年も前の話である。それらは全て時効である。40 年前の事件は最早歴史の対象である。

海外にいたということで時効が停止するというのが法的根拠となっているが、時代錯誤も甚だしい。交通機関の発達によって地球は狭くなっている。10 時間でアメリカにもヨーロッパにも行けるのである。国内と海外の差はなくなっている。海外にでてしまえば捜査の手が全く及ばない時代の産物が「時効」である。

「よど号」の田中義三はカンボジアでCIAの手先に無実の罪で捕らえられ、日本に送還されて、獄死させられた。赤軍派のメンバーの多くが海外で捕られたている。帝国主義の国際連帯によって、国内、国外の区別がなくなっているのである。こんな時代に海外在住を理由に時効が停止するのはおかしい。「よど号」の妻たちを弁護している川口弁護士も時効の停止は感覚としておかしいと

いつている。

60年から70年にかけてベトナム反戦を中心に日本のみならず欧米でも多くの青年の運動が燃え広がった。彼らのおおくは今社会の中心で活動している。

ゲバラと共にボリビアで戦ったレジス・ドブレは現在リヨン大学の教授である。

この時代を共に戦った法曹界の人々に呼びかけたい。海外在住の「時効停止」の不当性を刑法界の世論としてほしい。

刑訴法 255 条の改正について

「犯人が国外にいるときは時効は停止す」の後ろに「この法律の上限は 25 年である」の一文をつけて国会で通してください。

「時効停止」の期間制限がないことが刑訴法 255 条の欠陥である。国際化時代の今日たかだか海外にいたというだけで「時効」が停止すると言うのは時代錯誤も甚だしい。こんな条項は破棄すべきである。しかし「破棄」にどうしても抵抗があるなら、100 歩譲って、最低限、停止期間の上限が明示されねばならない。

2018.6.1 柳田 健

私と革命運動とのかかわり。

私と革命運動との関わりは高校時代に始まる。当時私は阪神間の富裕層の師弟が通う甲南高校に通っていた。この学校の人文科学研究部にはいていた。

これは当時左翼の学生組織「社研」の名称をさけた結果つけられた名称だった。

当時この高校の社会科には相馬、藤田、畑井、という京大出の教師がいた。一番の年長者が相馬先生だった。私達はよく相馬先生の自宅に集まって歓談した。

私は彼に深く影響を受けた。畑井先生は社会科の授業で、唯物史観を説明し、黒板いっぱいにかきなぐった黒板をチョークでたたきつけ、これが唯物史観です。といった。

マルクス主義を知ったのもこの頃だ。『賃労働と資本』、『共産党宣言』、『フランスの内乱』、レーニンの『帝国主義論』等を読んだ。

そしてレオ・ヒューバーマンの『資本主義経済の歩み』(岩波書店)。ポール・エム・スウィージーの『歴史としての現代』を読んだ。

この頃京都で旭ヶ丘高校事件があった。北小路教師が授業が赤いということで解雇された。

かの中核派リーダー北小路敏のお父さんである。これを甲南高校の新聞部が取材した。相馬先生が手を入れて表現を柔らかくしたて掲載した。

私の政治運動への関わりは歌声運動である。

何がきっかけか、思い出せない。湊川高校のお幸のいえによくいった。お幸は母子家庭で父親は戦前の共産党員で、特高に殺された。ここで何人かの高校生と知り合った。彼らとともに「高校生の集い」が結成された。

歌とフォークダンスが行われた。毎回100人位集まった。

これに参加した高校生は神戸高校、兵庫高校、夢の代高校、兵庫工業高校等多彩だった。

これらの動きを指導したのは、高教組の指導部の吉富先生、福地浩三先生等だった。福地浩三はのちに湊川高校の高校生の姿を『吼えろ落第生』という本で書いて有名になる。

当時日本共産党は50年武装闘争に破れ、半地下活動をしていた。

当時の甲南高校の英語教師の桑原先生にたのまれ、私の家を彼らの会議場所に提供したことがある。桑原先生は隠れ党員だったのちに立命館大学の教授(現理事長)となる長田豊臣と知りあったのもこの高校生の集いである。

砂川基地拡張反対闘争があった。この飛行機をベトナムへとばすなとスローガンをかかげて砂川闘争は激しく戦われた。多くの学生が参加していた。雑誌『世界』にそのようすが掲載され、私はそれを夢中で読んだ。全学連の名を知ったのはこのときである。

今東京、大阪で弁護士事務所をひらいている諸石光熙弁護士もこのころの仲間であった。

彼は甲南高校の優等生で現役で東大に入学して、弁護士となった。

私は高校生運動に熱中し二浪するはめとなった。

なにかの受験生向けの本で大阪市大が赤い大学と紹介されていたので大阪市大にはいった。入学して私は真っ先に共産党市大支部の部屋を訪ねた。部屋には天井から大きな赤旗が垂れ下がって居た。しかし誰もいなかった。

私は市大経済学部の執行委員に入学後、2週間でなった。そしてすぐに「資本主義研究会」にはいった。ここでのちに全学連中執となる武田信照君と出会う事になる。彼は新聞会の理論家としてみんなから尊敬されていた。

大阪市大には私の期待どおり、多くのマルクス主義講座があった。私は大いに満足だった。甲南高校から東大に入った山前君にそれを話した。入学した大学が気に入るなんて結構な事じゃないかといわれたことを覚えている。1956年、スターリンのソ連内部の政治を批判した「フルシチョフ秘密報告」が報道された。1958年11月ハンガリー事件がおこる。当初ソ連側が報じるアメリカの陰謀による反革命だと「赤旗」が報じた。学生党員はこれを信じてソ連の行動を擁護した。ために彼らは全く孤立した。時が経つにつれ、事実がわかってきた。ながらくソ連に抑圧されてきたハンガリー人民が蜂起してナジ政権を打ち立てた。これをソ連が認めず多数の戦車隊を繰り出して弾圧した。ブダペストの街中でこれを目撃した、英国共産党機関紙記者ピーターフライヤーは「私は悲しかった」とその書、『ハンガリー革命の悲劇』でのべている。それまで左翼にとってソ連、スターリンは絶対的な存在だった。この時からスターリン主義批判がはじまった。日本共産党はスターリン主義を批判する、学生党員を多数除名する

この時除名された学生党員を中心に共産主義者同盟(ブント)が結成された。ブントの理論的中心は姫岡玲治(青木昌彦)、だった。1958年 社会主義学生同盟が結成される。全学連唐牛健太郎委員長が大阪市大にオルグにやってきた。そして私に武田、他に2, 3人がブントに加盟した。唐牛は彼独特の角バツタ字で、共産主義者同盟大阪市大支部結成と半紙に書き壁に張り付けた。

姫岡玲治(青木昌彦)も何度かORGIにやってきた。1959年11月27日 総評を中心とする安保改正阻止闘争があり、全学連を始め多くの労働者部隊が国会内になだれ込んだ。夜間になって、多くのライトがデモ隊を照らし、革命前夜のような光景となった。

1960年1月15日岸内閣総理大臣の訪米阻止闘争が羽田で行われた。参加者全員70余名が逮捕された。唐牛委員長、東大生樺美智子、下土井東京女子大委員長、当時神戸大学生だった私の弟もパクラれた。

この年の5月にも総評を中心とする国会闘争があった。1960年6月15日総評、全学連等による国会闘争が行われた。く当時唐牛健太郎委員長を筆頭に在京の執行部の逮捕が相次ぎ、それを補うため北小路敏副委員長をはじめ地方の中央委員数名が上京していたが、武田信照中執もその1人であった。当日明治、中央、東大駒場など戦闘力の強い大学のグループを北小路が指揮し、女子大を含む他の大学のグループを武田が指揮していた。国会構外を他の諸団体と共に数回わたってデモを

した後、南通用門を巡る攻防が始まった。

通用門内に防御のためにバリケードとして並べられていた機動隊の車両にロープをかけて引き出そうとする学生に、機動隊は強力な放水を浴びせて撃退させようとする。武田は第一と第二の大学グループの中間に置かれた宣伝カー上からこの攻防を見ていたのであるが、引いては進むことを繰り返すこの攻防の北小路の指揮ぶりはなかなか鮮やかなものであった。結局車両は引き出されて南通用門は破られ、学生デモ隊は国会構内に入り抗議集会を開いた。

この抗議集会で吉本隆明が連帯と激励のスピーチを行った。

しかしその後機動隊が警棒を手の一斉に学生に襲いかかった。無防備の学生に抵抗する術はなかった。警棒によって頭に裂傷を負った学生は多い。武田は竿のような長い棒状のもので腹を突かれて頭から転落し、半ば失神状態の所を腕章を巻いた報道陣らしい数人に構外に連れ出されて逮捕を免れた。地上に衝突した頭部には、今なお鈍い麻痺感が残っている。

この機動隊の攻撃の際に、樺美智子さんが死亡した。慶應大学医学部で解剖され、臍臓に鈍器による圧迫出血があり、その後首を絞められての扼殺の可能性が大という鑑定書を検察が受け取らず、東大医学部に再鑑定を依頼した。検視もなしに人なだれにより圧迫死という鑑定書が出された。矛盾する双方の鑑定書は公表しないことで手がうたれたという。

世情では圧迫死が通説となっているが、真相は今も闇の中に放置されている。

この攻撃によって構外に押し出された学生には、もはや隊伍を組む余裕もなく、追い打ちをかける機動隊によって国会周辺からバラバラに退散させられた。>『季報唯物論研究』第133号武田論文より引用。

樺美智子虐殺抗議は学生運動のみならず、多くの人が抗議行動に参加した。国会は全学連が用意した「虐殺抗議」の大看板を先頭におおきなデモにかこまれた。それは安保を推進した岸内閣に向けられ、「岸を倒せ」の声となった。翌日の大阪市大の1000人ちかい虐殺抗議デモの隊列に1本の日の丸の旗が翻っていた。いかに幅広い層の学生が樺さん虐殺にいきどうっていたかを示すものだった

6月18日岸内閣は倒れた。

.....

安保闘争は若い多くの活動家に担われた。京大は59年入学組が多数居た。渥美文夫、新開純也、三宅宗明等で得ある。大阪市大は60年入学が多数いた。藤本昌昭、八木、芹生琢也、加藤勝美、島、山下五郎等である。同志社は浅川清、藤野興一、蒲池裕治、三木等である。

山下は医師となって尼崎に診療所を開き、周辺の住民に慕われた。

6. 15が終わり、6. 18が終わる。運動は波が引くように小さくなっていった。

この年の夏休み、我々は帰郷運動を行った。安保改定を説明した。樺美智子のお母さんに彼女の生い立ちを語ってもらった。

安保闘争で育った若い活動家集団は大きな遺産となって、後の沈滞期の運動、70年の高揚を支える力となる。

60年から70年の間に田宮高磨、戸梶博夫等が大阪市大に入学した。

京大には八木健彦、片岡卓三、吉國恒雄等が入学する。吉國は後にアフリカ・ジンバブエ大学の教員となる。

大阪市大の全学自治会選挙がおこなわれた。これまで経済学部が中心で全学的には少数派であったブント派が日共構造改革派に勝利した。

私は小野義彦ゼミに入った。小野義彦は日共構造改革派で従属自立論争の自立派の論客として著名だった。しかし、イタリア共産党トリアッチ派だった。ゼミでは私と小野義彦との論争となった。構造改革では革命はできない、武装闘争の必要性についてだった。ゼミが終わると彼は椅子に座って大きなため息をついた。

小野義彦から、彼が京大に入ったときの話を聞いた。京大事件のあった昭和8年(1933年)、構内に処分者の張り紙が多数張られていたとのこと。

彼は私の結婚式にきてくれた。私を大変な論客だといった。八木が挨拶で小野義彦を打倒すると演説した。

.....

労働運動について

私達、学生運動で知り合いとなった者は卒業後、芦屋にマンションを建てた。

全電通労働者前田裕悟氏を軸に私、藤野興一(同志社)、中島鎮夫、(同志社)、伊藤文昭(大阪西部労働者)等が中心だった。京阪神の多くの活動家がここに入出入した。闘争のあるたびに権力はここの近くに車を止めて双眼鏡で見張った。

学生運動を戦ったものは卒業後就職した企業で組合運動をやった。労働組合の書記になったものもある。同志社の藤野興一、福富健、大塚彰は全電通の書記となった。市大の芹生も全電通の書記となった。市大の大森昌也は国労の書記となった。

長崎の三菱造船の活動家集団「長船」(長崎造船社会主義研究会)はその指導者西村卓司氏と共に我々の憧れの存在だった。

関西の全電通労働組合の中央電報局の活動家集団の前田裕悟氏もそうだった。

我々はその思想的影響力を広めるため大阪に「労働者学園」を作り、藤本進治氏を学園長に頂いた。メーデーなど労働者の集会で募集ビラをまいた。1万枚に1人の割合で労働者が応募した。釜ヶ崎の新里良美氏、阪急電鉄の斉藤哲夫氏などが「労働者学園」に加入した労働者である。

1965年頃から、全国的に青年労働者の運動組織として反戦青年委員会が組織された。

大阪でも総評青年部が全大阪反戦を組織した。

これを下から支えるものとして「地区反戦」が組織された。全電通地方支部の書記に就職した同志社の藤野君は勢力的に地方支部参下の支部をまわって「地域反戦」を組織した。それに各地の大学を出たブントのメンバーが協力した。

私は堺地区反戦を全通労働者とつくった。常時2、30人の労働者が組織された。これに加わった、全電通、全通、国労等の青年労働者が参加した。

これら地区反戦をまとめて関西地区反戦連絡会議を組織した。事務局長は京大から尼崎地区にはいった清田祐一郎だった。北大阪反戦、堺反戦、西大阪反戦、尼崎反戦、吹田反戦がブント系反戦で関西地区反戦の多数派を形成した。

この反戦青年委員会の闘争の中で、新しい青年労働者を組織していった。堺反戦の森岡君等がその典型である。堺反戦の吉田金太郎君は日立造船の労働者だった。彼はのちに「よど号」ハイジャックに加わり、北朝鮮で病死した。

.....
1967年10. 8佐藤首相訪米反対闘争で羽田に向かう穴堀橋で京大の山崎博昭君が殺された。
67年11, 12羽田闘争が戦われた。

68年関西ブントは単独で御堂筋デモを行った。京都から京大、同志社他京都勢が大阪市大杉本町キャンパスにバスでのりつけ、大阪勢と合流した。そこから地下鉄を占拠して御堂筋本町に現れた。ゲバ棒で武装した赤ヘルのデモ隊は機動隊を蹴散らし、南海電鉄難波駅を占拠した。ゲバ棒が夕陽に映えて美しかったと人民新聞は書いた。同志社の望月上史 が総指揮者だった。大阪市大は西浦隆男が指揮者だった。

この年の秋、東京で反戦集会が行われた。圧倒的な白ヘルに驚いた。デモに入り、十数列の先頭のゲバ棒部隊が阻止線をはる機動隊を一瞬にして蹴散らした。デモ隊は威風堂々と明治公園に入場した。

60年台後半、全国の医学部で学部生と研修医によって、全学連医学協や青医連が始めたインターン制度廃止を軸とした研修医の待遇改善が台頭した。その中心が東大医学部であった。東大当局はこれを認めず、紛糾した。そして東大全共闘が結成された。

東大全共闘議長は山本義隆だった。山本義隆のポケットにはノーベル賞をとれるぐらいの論文が2, 3本はいつているといわれていた。

東大全共闘は安田講堂を封鎖した。

69年1月18日、19日安田講堂は機動隊にとり囲まれた。放水車からは催涙水が放水された。

この時神田界限はデモに埋めつくされた。

一方日大では当局の不正経理に対する抗議行動に端を発して、日大全共闘が結成され秋田明大が議長となった。日大に全共闘のデモにたいして日大右翼学生が日本刀を持って襲いかかった。しかし鉄パイプで武装した日大全共闘のデモは右翼の攻撃を蹴散らした。

東大、日大を頂点とするバリケードストは全国の大学に拡大した。

塩見孝也等が武装蜂起を主張し始め、これを批判されると仏派にゲバルトをかけた。仏さんは重傷を負った。これは、塩見孝也、花園紀男、田宮高磨らによって行われた。7, 6事件である。

これはブントに分裂をもたらした。赤軍派の発生である。この時、東京を追われて帰阪していた田宮は私の所に来て自分をブントにオルグしたのは柳田さんだから、その責任をとって赤軍派に来て欲しいといった。

この年の秋、赤軍派は大菩薩峠で軍事訓練をする。が警察に捕捉され、全員が逮捕された。70年3月15日、塩見が逮捕された。彼はその後20年服役し、1989年に出所する。

.....
ハイジャック闘争 1972年3月

3月末、「よど号」ハイジャック闘争がおこなわれた。福岡から東京に向かった「よど号」がハイジャックされた。「よど号」は日米韓阻止線を破って北朝鮮、平壤に向かった。私はこれは田宮がリーダーだとすぐにわかった。大菩薩峠事件等で多くの幹部が逮捕されたなかでこんなとができるのは、田宮以外はなかったからである。

京都の喫茶店には多くの学生が「よど号」の動向を見守り、無事、ピョンヤンに到着するとヤッタと歓声を上げた。

赤軍派が脱退して弱体化したブント指導部を強化するために関西のブント指導部が上京する。渥美派、仏派と組んでブント指導部を形成する。私は山下五郎、佐藤秋雄、田中正治らと軍事委員会を担当する。

70年の10. 21闘争はブントは数も少なく開発したタバコ爆弾はまともに爆発しなかった。火炎びんを運んだ芹生は車ごとパクラれた。

山下は後に、春日部市で障害者支援運動をおこし、障害者自らが作る手づくりの雑誌「わらじ」を刊行した。それは今も続けられ、毎月私のもとに送られてくる。

1972年5月奥平剛士、安田安之、岡本公三の3人はイスラエルのリッダ空港に降り立ち、イスラエル兵と銃撃戦をまじえた。この戦いはパレスチナをはじめ、イスラエルと戦う多くの人々に大きな感動をあたえた。

赤軍派はアラブにのびた。重信房子だ。

彼らはベイルートを拠点にベカン高原に展開してイスラエルと戦った。しかしイスラエルはベイルートを占拠した。

ベイルートを追われた、赤軍派は各地に散った。アフガニスタンで針灸師をしてひっそり暮らしていた城崎勉を米軍が拉致してアメリカに連れ去った。30年の刑を言いわたした。これは全くのでっちあげだった。彼はジャカルタの米大使館をロケット砲で攻撃したという罪で拘束された。

しかしその時彼はベイルートにいたのだ。

彼は18年服役して、釈放され、日本に送りかえされた。しかし日本の官憲は彼を逮捕した。これは全く不当な行為で、一事不才理の原則に反する。

2000年重信房子は密かに日本に帰り、活動中、高槻で逮捕された。20年の刑を食らった。

彼女が出所するまで生きて出迎えたい

重信の娘、重信メイが日本に帰ってきた。京都のカフェラテツィアで歓迎会が行われた。20人ぐらいが集まった。田川晴信が円山公園野外音楽堂で1000人規模の集会をやりたいといった。

その年の10月21日田川や新開達の努力で円山公園で反戦、反安保の集会が行われた。850人が集まった。

それ以降10. 21円山集会は毎年行われている。

2012年6月ライラ・ハリドが来日し、京大西部講堂で歓迎会が開かれた。70年初頭イスラエル機をハイジャックして、パレスチナの戦いをアピールした若く美しい女性闘士も、今や年を取って小太りのおばさんになっていた。彼女はリッダ闘争の3戦士の闘いを讃え、感謝した。

2015年12月12日、田宮高磨逝去20周年集会が大阪梅田、大阪駅前第2ビル6階大阪市大文化交流会館で開かれた。65人が集まり、集会は盛り上がり盛況だった。八王子医療刑務所がら、重信のメッセージが寄せられた。森本忠記がこれを読み上げた。

司会の戸梶はみんな年を取ったが、生きて重信房子を迎えようと呼びかけた。

私は今78歳。狭心症と前立腺がんを患っている。走ると胸がいたくなる。デモも後ろからゆっくり歩いてついていくのが関のやまだ。集会を自ら組織して走りまわることもおっくうだ。

ただ自分もかかわった、過去の闘争で今なお獄中に捕らえられている人達の救援活動は続けたい。

さしあたって城崎勉君の釈放だ。彼は「ジャカルタ」事件の実行者として、CIAに捕らえられ、米国

で18年間服役した。日本に送還されたところを警視庁に逮捕された。そして「ジャカルタ事件」で起訴されている。これはあまりにも不当な行為だ。

しかもこれは冤罪なのだ。「ジャカルタ事件」のあった1986年、かれはレバノンにおいてイスラエル軍と戦っていた。

「ジャカルタ事件」で逮捕され、18年間服役しているのである。一事不再理という規定が憲法にもある。これは日本の司法当局の過激派對策であり、不当な弾圧である。

全国の人権派の人々に呼びかける。城崎君救援に立ち上がってください。

2018年6月16日 柳田 健

柳田雑記 (24)

今泉正臣さんは小川、北小路の3人並んで京大ブンドを代表する3羽ガラスでした。知的な笑顔、説得力ある語り口は印象的でした。

1967年の11.12羽田闘争の時、何を間違っただろうかクロカンの革共同に行き、我関西ブンドと激しく対立しました。機動隊をまえに突撃しようとする我々に前に立ちはだかり我々は彼らを蹴り飛ばして、隊列を進めました。革共同特有の部隊温存主義のせいでしょう。

その後68年に革共同を離れて、また仲良くなりました。クロカンのお先棒を担いだ小川さんのせいでしょう。

その後、鹿児島県の鹿屋のハンセン氏病施設に身を置き医師として治療を続けました。

私が鹿屋を訪ねた時、大変喜び歓迎してくれました。

京大ブンド育ての親として立派に生きた人に敬意を表し追悼したいと思います

2018.6.23. 柳田

柳田雑記(25)

2018年・・・柳田健

岩田吾郎くんの手紙で大阪市大民学同のWEBがあることを知った。

開いてみると当時のことが生々しく記載されている。私の書いた統一自治会選挙むけのピラも載っている。

今さらどうでもいいが、我々は民学同に負けているなという感じだ。

いずれにしても懐かしい限りだ。

西浦が生きていれば市大ブントのWEBをつくろうかと相談するところだが、私1人ではする気がしない。

あの頃よく市大やその近辺を下駄をはいて闊歩したものだ。

市大と大和川のあいだにあなせの部落があった。その若者に「兄ちゃんいい貫禄やなと」と言われたのを覚えている。そう民学同とはほんとに激しく戦った。

私の頭のなかには陰謀がいっぱい詰まっていると言われた。経済学部のみブントを全学選挙を機に全学の多数派に伸びていった。

やはり6.15を闘った全学連主流派だということがおおきかった。

小野義彦教授。森信成教授という2人の日共構造改革派を擁した民学同は強力だった。我々ブント派は悪銭苦闘した。京大から清田、竹内等が応援にきた。

(注)現在、上記WEB「民学同40周年を考える」は閉鎖中

柳田雑記 (26)

ポール・エム・スイージーの「革命後の社会」を読んだ。

2018年7月18日 柳田 健

かってレオ・ヒューバーマンとともに私の青春時代、アメリカを代表するマルクス学者として、その著作に親しんだ人物である。1910年生まれだから、そうとうな高齢である。

かって称えたであろうソ連のその後の変質を明らかにした著作である。

マルクス主義者によるソ連批判である。

「疑いなく、ソ連における唯一の支配政党となったボルシェビキ党は、都市のプロレタリアート党として出発し、そのような党としてロシア革命における権力奪取の過程を先導した。しかし、内戦の数年間におけるこの階級の多くの者の死亡と分散に伴い、階級と党との間に確立関係は大きく解体されることとなった。そして多年にわたり(ほぼ1920年代及び30年代に)党の支配は軍隊と警察機構を掌握することによって行われたが、明確なあるいは堅実な階級的基礎を持つものではなくなっていた。

私(スイージー)のいけんでは、ソヴィエト社会を理解する鍵は、まさにこれらの混乱と対立の年

代を通じて、新しい階級が生まれ、しだいに共産党への支配力を得、その旧ボルシェヴィキ指導部を分解し、そして文字通りの支配階級としてみずからの位置について、認識することにある。」

この本はおおむねこのような内容を詳細に各章で展開している。



柳田雑記 (27)

さらば積年の同志諸君。

大勢のお見舞いありがとうございます。浅田、新開、森本、渥美、田川君。神戸赤十字病院の口坂医師から、もうわずかの命といわれてから私はまだ生きています。一緒に甲南中学へいった古い友人の林君の見舞いには驚きました。そしてよど号の夫人たち、金子、魚本、西浦(ママ)、遠路はるばるありがとうございます

私は今国会に1つの法案を出したいと思っています。

刑訴法127条。「国外へ逃亡したものは再度の入国を禁ずる」この法律のために現在平壤にいる小西、赤木の同志達が帰国できないでいます。

しかし、よど号ハイジャックは1970年3月の事件です。50年以上前の話です。

世界のどこに50年も前の事件の犯人を追い回している国があるでしょうか。

それら全ては時効です。彼等は誰一人殺したわけではありません。航空機1機をかつぱらっただけです。それもすぐに返却していますから、窃盗未遂罪です。

1970年代は、世界で新左翼の運動が盛んでした。イタリアの「赤い旅団」は時の首相モロを暗殺しました。其の実行犯を含めていま獄中にあるものはいません。

西ドイツのバーダー・マインホフにしても同様です。

刑訴法127条、これに25年の時効を設けるのです。

立憲民主党あたりから提案してほしいのですが。

京都法律事務所の高橋弁護士をはじめできるだけ多くの弁護士の賛同をえて国会に提案したいのです。弁護士に限りません。多くの人々の賛同をえて提案したいのです。賛同人をつのります。

2018・10・23 柳田 健